

サラムサラム⁽¹⁸⁾
朴貞愛さん



今回のサラムサラムは、去る七月七日のむくげの会のゲストデーに来て下さった朴貞愛さん。

ゲストデーは、月に一度ぐらいいの割りあいでしているが、当初は少ない会員での毎週火曜日の発表がつらいので「外資導入」が主なねらいだった。最近は、サラムサラムに登場するゲストも多いが、「会いたい人に皆で会おう」というのが狙いになっている。すなわち、会に来ても

つらて話をうかがつた後、集中的に質問などすれば、効率的かつ集団的に親しくなるという趣旨である。

朴貞愛さんとむくげの会との「因縁」は古い。一九七一年で、当時は兵庫県下は、部落出身者、在日朝鮮人を中心として「一斉糾弾闘争」が盛んな時期で、尼崎工業高校、兵庫工業高校、湊川高校とともに活発に闘われたのが県立神戸商業高校へ県商（右側）だつた。朴貞愛さんはその県商の中心メンバーのひとり。県商では集団で授業を放棄して旅館で「合宿」していたところを見られた教師が、のちに私服警察に守られて登校しててきた。校

門前で小競りあいがあり、それを理由に多くの高校生が逮捕されるということまで起きたのである。右頁の『先公よ、おれたちを見捨てるのか!』（70年8月、県商生徒会、B5、91頁）は有名なパンフレットだが、表紙の校門をめぐる攻防は、高校生（右側）のいるのが校内で、外から先生と私服刑事が校内に入ろうとしているところなのである。よくあつた学校当局側のロックアウトとは逆である。むくげの会の前身は神戸ベ平連の中にあつた「差別抑圧研究会」だが、当時、それらの会などで大学生であつたわれわれは、高校生の一斉糾弾闘争に大いに触発あるいは糾弾されたこともひとつの契機として、「皮相な覚悟」（？）で朝鮮問題を中心としたむくげの会を発足させることにもなつたのである。

私は朴さんとは最近、神戸学生青年センターで何回かお会いしていた。それはセンターが兵庫県の有機農業運動のセンターになつていて、そんな関係で朴さんも「菜のはなの会」という有機農業の消費者グループの代表として度々来られていたのである。私の中で、県商の朴貞愛と菜のはなの会の朴貞愛がつながつてなかつたのである。

それがユーリー生協の総会でつながつた。これも説明がいるが、ユーリー生協というのは昨年、金柱天さんによる車検などを中心業務内に設立されたもので、車のユーリーによる車検などを中心業務とする生活協同組合のことである。ユーリー生協に多くの在日朝鮮人が関係しており、朴貞愛さんも金柱天さんたちとの関係からその理事となっていた。わたしは会員ではあつたが、去る五月末にセンターで開かれた総会で理事となつた。総会後、旧理事も交えての懇親会で朴貞愛さんといろいろ話ををしていてふたりの朴貞愛さんがつながつたのである。

その一週間後、韓国カトリック農民会の一一行二十名が学生セン



ターに来た。毎年、日本の有機農業運動の生産者・消費者との交流のためにこられるのである。例によつて最初の夜は、日本の農民、消費者それに学生センターの朝鮮語講座の「優等生」たちが通訳に入つての歓迎会がある。そして翌日から農村の有機農業グループ、都市の消費者グループを訪ねるのである。私も同行して、姫路での交流会の後、神戸市の西部にある朴貞愛さんたちの「菜のはなの会」を訪ねた。昼にチゲ鍋をご馳走をしてくださり、ワイワイと交流会があつた。朴さん作成の朝鮮語版「菜のはなの会組織図」もあつた。ハブアニ

ュウーギニアからきた人との交流会のとき英語版を作つたのでやはり今回、朝鮮語版を作つたとのこと。とくにカトリック農民会のメンバーに加わっていた元気な消費者グループのリーダーである女性との話がはずんでいた。

朴さんは先の『先公よ、：』に、「私ら朝鮮人かて人間や」と題する原稿用紙25枚ほどの文を書いている。九州生まれの朴さんは「気の強い方だつた」という。また「不正なことは見逃しておけず目上だろうが何だろうが文句をつける」タイプであつたともいう。生徒会の副会長

もしていた高校二年生の十月（69年）に本名をなのり、それ以降、積極的に自分を語つていった。家族のこと、チマ・チヨゴリしか着ないオモニを避けていたこと、就職差別ゆえにあえて進学クラスに入つたことなどなど。そして「日本人なら私のことを気やすくなるという事がどんな事か、本当にわかっているとはいえない。そのしんどさも知らない。／しかし、あくまで私は在日朝鮮人朴貞愛であり、在日朝鮮人朴貞愛として生きていくつもりだ」と結んでいる。

ゲストデーでの朴さんは、やはり、キップのいいおばさん（失礼！）だった。学生時代「君は竹だ」といわれたことがあるらしいが、その片鱗はいまも残つてゐる。数年前神戸に住んでいたころに神戸市の西部の農民を中心に「土と緑の会」ができ少し関係していたが、一時期、横浜に移つてのち神戸に戻つてからは、有機農業の消費者グループの菜のはなの会に出会い運営委員となつて以来も活動を続けてゐる。「有機農業運動の中に社会のいろんなことが凝縮されているのではないか」と考えている彼女は、得体の知れないことを拒否し、行政サイドで物事が進められることに抵抗しながら、もちまえの「元氣」で活動を続けている。娘の入学式で公然となされる日の丸・君が代にも、はつきりとした抵抗の姿勢を示す朴さんである。最近は「快医学」を共に学ぶ会『快の会』の世話をとしても活躍している。（＊＊瓜生さんが提唱してい操体法、○リングテスト等を取り入れた健康法）

一九五二年生まれの朴さんも四〇才になつたというが、二〇代でむくげの会を作つた我々も、ああそんかこともあつたなアとかいいながら、二〇年一日だなと思つたりしたゲストデーでもあつたともいう。生徒会の副会長

書誌探索

朝鮮に関する論調文・記事事(三六)

一九九二・七(佐久間英明)

政治・経済

論文・記事名 著者名 誌名 卷号数 発行機関 年月

歴 史

「安重根と東洋平和論」中野泰雄 『国際関係紀要』創刊号 亞細亞大学国際関係学会 一九九一・一一

「朝鮮使節と大徳寺」中尾宏 『瓜生』第二号 京都芸術短期大学 一九九一・一二

「淵沢能恵と『内鮮融和』」石井智恵美 『基督教論集』第三五号 青山学院大学基督教学会 一九九二

「従軍慰安婦問題を考える四つの観点」倉橋正直 『季刊中国』一九九二年夏季号 『季刊中国』刊行委員会 一九九二・六

「韓国における島根県の植民地経営会社」内藤正中 『山陰地域研究(農山村)』第八号 島根大学山陰地域研究総合センター 一九九二・三

「韓国をめぐる日露交渉、一八九八—一九〇一」広野好彦 『国際学論集』第一巻第一号 大阪学院国際学会 一九九二・一二

「朝鮮後期駁民の身分変動について:金泉道、松羅道形止案の分析を中心に」竹腰礼子 『待兼山論叢』(史学編)二・一二

「朝鮮後期駁民の身分変動について:金泉道、松羅道形止案の分析を中心に」竹腰礼子 『待兼山論叢』(史学編)二・一二

「朝鮮後期駁民の身分変動について:金泉道、松羅道形止案の分析を中心に」竹腰礼子 『待兼山論叢』(史学編)二・一二

孫基禎と「消えた国旗」 『菅野圭昭』『研究論叢』第二五号 親和女子大学 一九九二・二

「朝鮮社会主義法の特質—プロレタリア独裁の法理」大内典昭 『法学会雑誌』第三二巻第一号 東京都立大学法学会 一九九一・七

「韓国(第六次経済社会発展五ヶ年修正「一九八八—一九九年」)」深川博史 『経済学研究』第五六巻第四号九州大学経済学会 一九九一・七

「韓国の土地事情と土地公概念関係について」(講演)黄明燦 『日本不動産学会誌』第七巻第一号 日本不動産学会 一九九一・一〇

「韓・日物的工業労働生産性の国際比較作業細目—一九七七年、一九八二年および一九八五年」柳田義章 『修道商学』第三二巻第二号 広島修道大学商経学会 一九九一・三

「韓国資本主義分析への序説」(学術交流講演会報告)中川信義 『研究年報』第一〇号 大阪経済法科大学経済研究所 一九九一・三

「北朝鮮の「連邦制」について」田中明 『海外事情』第三九巻第一二号 拓殖大学海外事情研究所 一九九一・一

「東アジア共栄構想の再評価」元川房三 『アカデミア(人文・社会科学編五四)』第二二二集 南山大学 一九九一・一